

Core2Core プログラム (Joint Workshop on Solid State and Biological
Chemistry between UCLA and Waseda University at UCLA) レポート

【出張者】

寺沢 有果菜

早稲田大学大学院 先進理工学研究科 生命医科学専攻

朝日研究室 修士2年

【訪問先】

UCLA (University of California, Los Angeles), アメリカ合衆国, ロサンゼルス

【滞在期間】

2018年2月17日 (土) ~2018年2月21日 (水) (3泊5日)

【概要】

本出張では, UCLAのMiguel A. Garcia-Garibay研究室を訪問し, Joint Workshop on Solid State and Biological Chemistry between UCLA and Waseda University at UCLAにおいて, 研究内容の口頭発表およびポスター発表を行った。

【スケジュール】

2018年2月17日 : 日本からロサンゼルスへの移動

2018年2月18日 : UCLA Miguel A. Garcia-Garibay研究室訪問およびディスカッション

2018年2月19日 : Joint Workshop on Solid State and Biological Chemistry between
UCLA and Waseda University at UCLA

2018年2月20-21日 : ロサンゼルスから日本への移動

【内容および感想】

Miguel A. Garcia-Garibay 研究室が属する Department of Chemistry and Biochemistry は, molecular sciences building と Young hall の2か所に分かれていた。両建物はつながっており、通称 chemical building と呼ばれ、UCLA の化学系研究室が集約されていた。UCLA の Miguel A. Garcia-Garibay 研究室では、フォトメカニカル反応による結晶性ケトンの脱カルボキシル化について研究を行っている。学生らは、各人がテーマを持ち、研究に励んでいた。

ワークショップでは、Miguel A. Garcia-Garibay 教授および研究室学生の外に、UCLA の Ken Houk 教授と Yves Rubin 教授、UC Riverside の Christopher Bardeen 教授も加わり、非常に有意義な研究交流の場となった。口頭発表の質問の時間は少なかったが、教授陣だけでなく UCLA の学生からの質問が多く、日本の学生よりも積極性が見受けられた。非常に的を射た質問で、今後の研究に活かしたいと感じた。ポスター発表では、口頭発表をしなかった UCLA の学生も参加した。わからない部分を説明したり、説明してもらいながら、お互いの研究内容を紹介し合えた。英語でうまく説明ができなかった部分もあったため、英語での対応をできるようにしておこうと思った。口頭発表時より理解が深まり、研究の面白さを実感できた。

また、ポスター発表終了後には、UCLA の学生らと夕食を食べ、研究室での生活や今後の進路について話した。多くの学生は、時間を区切って研究を行っていると話しており、うまく ON/OFF の切り替えをしている印象を受けた。また、卒業後の進路を決めていない学生もいたが、アカデミアに残って研究を続けたいという学生が多かった。新天地で新しい分野を勉強することが楽しみだと話していた。

今回が初めての訪米かつ UCLA 訪問であったため不安なことが多かったが、とても充実して楽しい時間を過ごせた。さらに、研究から将来のことまで、想像以上に深い話をするのができてとても良い機会になった。

【謝辞】

本ワークショップの入念な準備および開催をしてくださいました、早稲田大学および UCLA の方々のご尽力に感謝申し上げます。短期の訪問ではありましたが、今回習得したことを今後の研究生活に活かし、邁進していきたいと思えます。ありがとうございました。

